

**ミゾゴイ会議の報告  
および  
保全活動に関する提言**

2010年10月

**バードライフ・アジア**

## ミゾゴイの紹介とこの種が直面する問題

ミゾゴイ (*Gorsachius goisagi*) は東アジアの低平地の森林を生息地とする水鳥の一種である。台湾でのわずか数件の記録を除き、日本でのみ繁殖するといわれている（それゆえ、"Japanese Night Heron" の英名が付けられた）。1980年代以前からフィリピンで冬期に数多くの標本が収集されていたため、主な越冬地はフィリピンであると考えられる。しかし、その個体数、分布と渡りに関しては十分な調査が行われていない。ミゾゴイは渡りの季節には台湾と中国南部で観察され、冬季にインドネシア、ブルネイとパラオで記録されていることが分かっているのみである。

ミゾゴイは1980年代まではあまり珍しい鳥ではなかった。それ以降、日本での繁殖個体数は減少しているが、その原因は未だに分かっている。ミゾゴイの世界総生息数も不明である。現存する個体数は5,000羽以下と推定されているが、1,000から2,000羽程度にまで減少している可能性がある。ミゾゴイの分布範囲は非常に狭く、縮小しつつあるため、IUCNのレッドリストでは絶滅危惧種に分類されている。

絶滅危惧種であるにもかかわらず十分な調査が行われておらず、この種の保全についての行動計画は策定されていない。バードライフ・アジアが2010年10月25日に開催した会議は、ミゾゴイの越冬地・繁殖地の両地域からの鳥類学者や保全活動家たちが一堂に会し、国際的な観点からこの種の保全計画について協議する初の試みであった。

バードライフ・インターナショナル 副会長

市田 則孝

# I 会議概要

---

## ▶開催日時・場所

2010年10月25日 15:45－18:00 於：JICA 中部事務所（名古屋市）

## ▶出席者

川名国男氏 ミゾゴイ研究における日本の指導的研究者  
フィリップ・クオ氏 中華民国野鳥学会（台湾）元理事長  
ブラス・タバランザ・Jr. 博士 ハリボン協会（フィリピン）ディレクター  
ドウィ・ムルヤワティ氏 ブルン・インドネシア 保全担当オフィサー  
葉山政治氏 日本野鳥の会 自然保護室 室長  
市田則孝氏 バードライフ・インターナショナル（英国）副会長  
河下浩信氏 バードライフ・アジア 総務部長  
マイク・クロスビー バードライフ・インターナショナル（英国）主任研究員  
シンバ・チャン バードライフ・アジア 主任研究員

## ▶プログラム

1. 自己紹介とプロジェクト紹介
2. ミゾゴイの野外調査報告（川名国男氏）
3. ミゾゴイに関する各国の現状
4. 保全活動に関する提言

## II 発表及び協議の報告

### 1. ミゾゴイの行動に関する調査結果 (川名国男氏)

- ・川名氏は、2006年から2010年までの5年間、東京の多摩西部地域で繁殖するミゾゴイの生態調査を行ってきた。調査の結果、これまで知られていなかった次のいくつかの重要な生態についての報告があった。
- ・その一つは、ミゾゴイは夜間に活動する夜行性の鳥とされてきたが、昼間に活動する昼行性の鳥であることが分かったことである。
- ・繁殖中の親鳥は、夜間は巢内で雛とともに眠り、給餌は昼間の時間にのみ行われた。給餌の回数は、一日平均14回で日の出とともに始まり、日没とともに終了した。
- ・次に、囀り活動は渡来の直後からつがい形成までの約10日間に短期・集中的に行われたことである。さえずりは、日没直後から開始され朝方まで続き、最高で一晩に10時間をさえずり通した。ミゾゴイが夜間に囀る理由は、タカ類やカラスなど昼間の天敵からの攻撃を避けるため、つがいを形成するうえで有利であるからと考えられる。
- ・動物病院で保護・飼育されている非繁殖期における行動調査でも、採餌行動などの活動は昼間の時間のみに行われ、夜間は止まり木で睡眠をしていた。活動の時間は、日の出時間と日没時間にほぼ準じていた。

### 2. 非繁殖地の国々におけるミゾゴイの保全状況

#### ① 台湾

渡りの時期に見られる珍鳥である。例えば、2007年の台湾全土での記録件数はわずか5件であった。ミゾゴイは集落の近くでも観察されている。

一方、ミゾゴイの近似種であるズグロミゾゴイ (*Gorsachius melanolophus*) が、現在台湾の低地林でよく見られる留鳥となってきている。ズグロミゾゴイは台北市街地の公園においても営巣が確認されている。

#### ② 中国本土と香港

ミゾゴイは渡りの時期に見られる珍鳥である。香港では、バードウォッチングが盛んになった1960年代以降、5件しか記録されていない。しかし、目立たない習性のため、見過ごされている可能性がある。

#### ③ フィリピン

数十年前に標本が収集されているため、ミゾゴイの主要な越冬地であると考えられる。しかし、この種について最近の情報はない。これも見過ごされている可能性がある。

#### ④ インドネシア

インドネシア東部でのいくつかの古い記録以外には、2007年に公表されたスマトラ島での記録が1件あるのみである。この場合、ミゾゴイは鳥かごに入った状態であった。

## Ⅲ 保全活動に関する提言

### 1. ミゾゴイの保全状況についての広報

ミゾゴイに関する一般の人々の関心度が低いのは情報が乏しいためと考えられる。渡りの中継地や越冬地でミゾゴイが売られていたり、鳥かごに入れられていることさえある。この種が絶滅危惧種であることを知らない人が多いようである。したがって、この種に関する一般の人々の認識を高めることが重要である。日本では、ミゾゴイを里山保全の代表種として位置付けることができるだろう。

#### 日本における活動：

- a. ミゾゴイの生態調査結果から普及啓発のための資料を作成し広報や教育のために活用する。
- b. 環境 NGO がミゾゴイを日本の里山保全の代表種に位置付ける。ミゾゴイは主に日本で繁殖するため、代表種にふさわしい種である。

#### 日本国外の渡来地及び越冬地における行動：

- d. 普及啓発のための資料を現地語で作成する。この作業は、中国におけるバードライフのネットワーク、及び香港、フィリピン、インドネシアのパートナーと共同で実施することができる。ミゾゴイの保全状況についての周知を図る。

これを東アジア・東南アジア地域の森林保護に関する国際協力プロジェクトの代表例と位置付けることができるだろう。

### 2. ミゾゴイの渡りについての調査

- a. 衛星を使用した渡りの追跡の実施可能性を検討する：現在利用されている PTT をミゾゴイに安全に装着できるか否か、また、ミゾゴイの自然生息地（森林）において PTT が機能するか否かを検討する。実施可能性が確認できれば、衛星追跡プロジェクトを計画する。
- b. 衛星追跡が適切でない場合、同じ営巣地に帰還すると考えられる個体にデータロガーを装着することを検討する。同じ個体が毎年同じ営巣地に帰還することが確認できれば、ミゾゴイを捕獲するよい方法はある。これは渡りに関する優良なデータを得るための比較的容易かつ費用のかからない方法となるはずである。したがって、渡来地と越冬地においてミゾゴイの個体群を発見しやすく、それらの地域における脅威の特定にもつながる。この方法を大いに推奨する。

### 3. 日本における繁殖調査

ミゾゴイが繁殖している可能性のある地点を調査し、繁殖地の地理的特徴から地域の個体群を推測する。繁殖地としての可能性がある地域の脅威を把握し、保全のための理解を深める。

個体数を把握する簡易な方法として、ミゾゴイが日本に渡ってくる4月に、求愛となわばり確保のために囀る鳴き声を録音することである。日本野鳥の会のような全国的な組織を活用して調査ができないかを検討する。

#### 4. 越冬地の調査

越冬個体群を発見した場合、生息地に必要な条件とミゾゴイの生態を調査し、その越冬地の保全と管理に関する提案を行う。川名氏は日本において保護・飼育下のミゾゴイの冬季の行動を調査してきた。この調査結果を用いて、他の国々において野生のミゾゴイが同様の行動をとるか否かの比較を行うことができるであろう。また、ミゾゴイに対する脅威についても詳細なる評価を行うべきである。

#### 5. ミゾゴイの渡りの経路上、あるいは越冬地の国々（中国東南部、フィリピンとインドネシア）における渡り鳥に対する狩猟圧力を調査する。